

徳島県立阿南支援学校ひわさ分校
令和6年度 第3回学校運営協議会 会議録

①今年度のこれまでの取り組みについて

- ・【学校評価(年度末評価)について】・・・「学校評価総括表」参考
- ・ホームページの紹介(教頭)

②今後の課題について(教頭)

児童生徒数が今年度19名から来年度25名となり、人数確保という課題はクリアできたが、15時発のタクシーまでの小学部の児童の過ごし方など課題が出てきた。福祉サービスに限らず地域のリソースとの連携、学校として情報提供・発信をしていきたいと考えている。

③各委員からのご意見

- ・お母さんと一緒に文化祭の子ども達の発表を見てのインパクトがすごく大きかった。今度中学部に入るお母さんが迷っていたが、「すごいよかった、決めます」と言っていた。
- ・交流については、学校の行事に全員で行かなくても、今後小学部の人数が増えたときは、その学年が一緒に行くというので良いかも知れない。
- ・地域貢献のプランターや花苗の提供は経費もかかっているの、今後は請負という形ではどうか、プランター一つでいくらというのがあるのも良いのでは。
- ・児童デイについては、近隣の施設ではそういう計画はないのか？
- ・社会福祉事業は海部でやったらなかなか採算がとれない。今後、小学部や中学部に子どもが増えたら、その評判で増えるのではないかと。しかし、増えても放課後の過ごし方、下校の方法がなくて諦めてしまうことがないようにしなければいけない。大きな課題で、福祉サイドも何とかしなければいけないと考えている。放課後等デイはできないが、日中一時の定員を増やすように、日中一時の受入枠を検討していきたい。時間についても小学部は学校にいる時間が短いので行政とも相談していきたい。
- ・あるお母さんが、放課後の活動として、地元の中学校での部活動参加も検討されている。事故や怪我の対応、参加可能な範囲等々、今後課題も出てくると思う。
- ・去年会社の見学に親御さんが連れてこられて一緒に見学したが、次は生徒だけで、どんな仕事という以前の「工場面白いなあ」という感じの見学で良いのでは。
- ・小学校の3年生ぐらいで「働く人」の単元で見学等をしているが、支援学校の児童生徒は時間をかけてもっと上の学年で見学をしてもいいかもしれない。(校長)
- ・小学部では難しいが、中学部ぐらいになると意識付けとして、先輩たちが働いていると身近なこととして捉えられるのではないかと。中学部の「はたらく体験」としてでも良いのではないかと。分校を卒業した先輩たちが働いているのを見せてもらえるとイメージが持ちやすい。(教頭)
- ・交流でも遊具を通して子どもたちが打ち解けて遊んでいた、管理が難しいが、適切な遊具がないのだろうかと考えてしまう。人数が増えているのでそう思う。
- ・子どもたちは楽しいところに行ってしまうので、きっかけ作りとして楽しいのが良い。交流でも子どもたちは休み時間が一番盛り上がっている。(小学部長)
- ・分校に来て目に見えて成長したと感じる。先生が個別に対応してくれた。就業体験でも不安があったが、対応してくれて行くことができた。前期の就業体験期間中に休んだとき「わたし、悪いことしてしまった」と言っていたが、後期は休まず行けて良かった。
- ・新入生も増えて、PTAの活動が活発になれば良い。
- ・その年々で皆さんで出来ることがあれば良かった。
- ・駅伝大会も良かった。